

# アカデミーだより

令和8年1月

特別号



## アカデミーの研修を通して

(寄稿) 第4期研修生 長友 敬祐

鬼北町奈良谷山演習林で指導を受ける長友さん(写真左)と南予森林アカデミー講師で自伐林家の菊池俊一郎さん

は、経験に裏打ちされた確かな技術が必要であることを強く意識するようになりました。また、アカデミーでは林内作業車やロープ、プラロックなどを用いた作業が中心でしたが、インターンシップではグラブプルやハーバスター、フォワードといった重機を活用した林業を体験することができました。重機を取り入れることで作業の進め方や役割分担が大きく変わり、実際の現場で行われている林業の形を知る良い機会となりました。

### ローカルな学校にしかない価値

私が他県から本県のアカデミーを選んだ理由は、募集人数が少なく、三市町を中心としたローカルな学校である点に価値を感じたからです。県全体を対象とした大規模な学校よりも、一人当たりが現場に向き合う時間を十分に確保できると考えました。林業は、実際に山に入り体を動かしながら身につけていく仕事であり、その時間の密度は学びの質に大きく関わると思ったからです。

私は高校生までスポーツに取り組んできましたが、山で過ごした経験はほとんどなく、入学当初は斜面を歩くことに強い不安がありました。足をどこに置けばよいのか分からず、滑り落ちるのではないかという意識が常にありました。また、伐倒や玉切りといった作業にも慣れておらず、想像以上に息が切れることが多くありました。特に夏場の作業は体力的に厳しく、林業の仕事を継続していくことの現実を実感する場面もありました。

そのような中で、アカデミーの研修は比較的ゆっくりとしたペースで進められており、自分にとってはその点が非常に良かったと感じています。作業に追われるのではなく、一つひとつの動作や判断について考える余裕があり、自分がどこでつまづいているのかを整理しながら取り組むことができました。

### 林業をより広い視点で捉える

#### きっかけに

林業という現場作業のイメージが強いですが、実際には作業そのもの以上に、考えることや段取りを組むことが重要だと感じました。木は重く、現場ごとに周囲を取り巻く環境も異なるため、作業の進め方次第では、同じ作業でも倍以上の手間がかかることがあります。体を使う仕事だからこそ、そうした条件を

考慮せずに作業をこなしていくのは非常にもったいないことであり、適切に判断するためには、判断の土台となる知見や経験を積み重ねていくことが欠かせない仕事だと考えるようになりました。

また、原木市場や製材所の見学に限らず、通常の現場作業とは異なるカリキュラムも多く組まれており、そうした学びを通して林業を多角的に捉えるようになりました。山の中の作業だけでなく、その前後に関わる工程や考え方に触れることで、林業は現場作業だけで成り立っているのではないという理解が深まりました。これらの経験は、実際の作業を行う際にも、より広い視点で物事を考えるきっかけになっています。

本アカデミーでの研修は、技術を身につける場であると同時に、林業という仕事をどのように捉えるかを考える時間でもありました。ここで得た経験や考え方は、今後林業に携わっていくうえで、自分の判断の基準として生きていくものだと感じています。

### インターンシップで実感した作業スピードと判断の速さ

インターンシップを通して特に強く感じたことは、アカデミーでの研修とは異なり、初心者である自分の基準ではなく、何年も林業に従事してきた方々の基準のもとで作業が進められているという点でした。作業のスピードや判断の早さは、これまでの経験の積み重ねによるものであり、その違いを現場で実感する機会となりました。

特に伐倒における技術の差は大きく感じました。安全を確保しながら、効率よく作業を進めていくための判断や動きに



収益を上げながら作業を行っている現場では、作業のペースや求められる技術の水準が高く、自分はまだそのレベルには届いていないという現実も感じました。しかしその一方で、実際の現場を経験したからこそ、自分に足りない部分や今後身につけるべき力が具体的に見えるようになり、インターンシップは非常に意義のある経験だったと感じています。

私は6社の事業体でインターンシップを行い、主に間伐作業を経験しました。定性間伐や列状間伐、作業道の策定、集材、下刈りなど、同じ間伐であっても作業内容は多岐にわたっていました。また、作業班の数や作業員の人数、使用している重機の種類や台数、作業を行う山の条件などによって、事業体ごとに作業の進め方や考え方が異なることを知りました。同じ林業であっても、現場や体制によって様々な形があるということを実感しました。

インターンシップを通して、自分の現在の立ち位置と、実際に現場で働いている方々との違いを明確に認識することができました。この経験は、今後どのような力を身につけ、どのように林業に向き合っていくのかを考えるうえで、大きな指針になりました。